

ふるさと塾・公民館講座「岩野田北地域の歴史と文化～ふるさとの宝物～」

●日時 10月18日(水)10時～11時30分

●場所 岩野田北公民館

●講師 藪下浩さん(元岐阜市歴史博物館館長、現在、岐阜市まちづくりサポートセンター事務局長)

講話のあらまし

栗野西の済法寺は県重要文化財の十一面観音像などで有名ですが、岐阜県の歴史博物館に収蔵され、お寺で拝観することはできません。

一方、平安時代から信仰の対象である庚申様のご本尊・青面金剛(しょうめんこんごう)の石像が境内に見られます。人の体の中には「三尸(さんし)」と呼ばれる虫がいて、60日に一度巡ってくる庚申の日に眠ると、この三尸が抜け出して天帝にその人の罪悪を告げるので、庚申の夜は眠らず飲み明かす風習が行われたと言います。今でも、栗野東で庚申講が行われているそうです。

この石像の足元には、干支である庚申(かのえさる)と辛酉(かのととり)が彫られています。一方、岩野田中学校の山裾の宝泉寺には、青面金剛像の絵図があるそうで、やはり猿と鶏が描かれています。

また、郵便局南の信号から東に突き当たった栗野(岩野田地区に当たります)の山裾には横穴式石室がいくつかあり、そのうちの一つの石室に建っている祠に青面金剛像がおさめられています。

横穴式石室がこの地区にはいくつか見られますが、以前あった一つがその後見つかりません。古墳は全国的にも、記録に残した後は開発されるのみという運命をたどっています。記録されればまだ良い方で、しっかり記録を残しておくことが大切です(なお、講話の後に、地元の方の案内で、幸いにも現存していることが分かりました)。

また、従来は山神碑だけと考えられていた箇所(台石)が、横穴式石室の天井に当たると考えられる新たな石室と考えられること、そして、もう1カ所の石室(道沿いにあるので比較的に見つけやすい)の計4箇所があることとなります。

講話では、このほか、江戸時代に盗掘された鎧から名付けられた眉山頂上の鎧塚古墳は、今のように樹木が生い茂っていなかった昔は、栗野から一望でき、地域の人が手を合わせたとの話もありました。

みんなで今日の話を持ち帰り、地域で故郷の宝を共有しましょう、とは藪下さんからのアドバイス。いいお話、ありがとうございました。

岩野田地域ビジョンには、地域のことを知り、郷土意識を醸成する「ふるさと塾」の開講を挙げています。次回開催が待たれます。